

第二部 日本語教育実践研究 2

著者	松崎 寛, 君村 千尋
著者別名	MATSUZAKI Hiroshi, KIMIMURA Chihiro
雑誌名	日本語教育実践研究論文集
巻	平成28年度
ページ	25-37
発行年	2017-03
URL	http://hdl.handle.net/2241/00145604

第二部 日本語教育実践研究 2

日本語教育実践研究 2 の概要

「日本語教育実践研究 2」は、国際日本研究専攻前期課程 2 年次の春学期に、本学に在学する外国人留学生だけでなく外国人研究者やその家族などを対象に広く受講希望者を募って、初級レベルの日本語クラスを実習用に開講・運営するものです。今年度は、日本語教育研究コースの院生 11 名と、筑波大学日本語・日本文化学類生 3 名、計 14 名が実習に参加しました。

院生たちは、日本語・日本文化学類の学生たちと合同で実習を行うため、実際にクラスで教える活動だけでなく、カリキュラム作りからコース運営までをチームで実施します。学習者の募集から、教案・教材作り、1 ヶ月半にわたる実習授業の実践、授業参観などの一連の教育・研究活動だけでなく、前年度からの勉強会等を、実習生たちが自律的に行うところにその特色があります。

また、一人当たり 3 回の授業実践においては、授業中の気づきや実習授業後の反省会、授業後の授業ビデオ分析を踏まえて、教室活動について深く内省し、1 回 1 回の実践における「計画・実施・反省・改善」のサイクルを繰り返すわけですが、各自で改善したい課題を発見し、その克服の過程を「アクション・リサーチ」の研究論文としてまとめあげるところも、本授業における大きな特徴の 1 つです。

本書には、この教育実習を通して実習生たちが学び、研究した成果、および 2 年間の日本語教育研究コースにおける成果がまとめられています。本書が日本語教育の実践と研究に役立つ内容であることを願うとともに、本プログラムのさらなる改善のために、皆様からのご意見やご感想をお寄せ頂ければ幸いです。

平成 29 年 1 月
筑波大学大学院人文社会科学研究科

松崎 寛

平成 28 年度 日本語教育実践研究 2 実施概要

君村 千尋

1. はじめに

本稿では、筑波大学大学院人文社会科学研究科における日本語教師養成プログラムの一環である日本語教育実習について平成 28 年度の実施概要を報告する。今年度より、同研究科の改組によって国際日本研究専攻日本語教育学学位プログラムにおいて日本語教育実践研究 2 が実施されることとなった。本実践研究は、初級レベルの日本語クラスを実習用に開講し、受講生の募集から、カリキュラムおよび教案の作成、教壇実習、授業見学、実習授業のビデオ分析、報告論文の執筆といった一連の教育・研究活動を実習生が自律的に行いながら、日本語教育におけるさまざまな技能を学ぶ。

今年度は、国際日本研究専攻博士前期課程の 8 名が本プログラムに参加した。以下、その概要を述べる。

2. 実習の流れ

実習のための日本語クラスは毎年 6 月に開講されるが、そのための準備は前年の秋頃から始まる。表 1 に実習の流れを示す。

表 1 実習の流れ

年月日	活動内容
平成 27 年 11 月 25 日	実習の引き継ぎ、仕事の担当および勉強会の日程決め
平成 28 年 1 ~2 月	自主勉強会 (75 分×計 4 回)
2~3 月	受講生募集準備 (ポスター、チラシ、プレースメントテスト、 グーグルフォーム等の作成)
4 月 6 日~20 日	受講生募集 (ポスター掲示、チラシ配布、受講希望メール受付)
4 月 18 日~5 月 30 日	通常授業 (月曜 6 限: ミニティーチングほか)
4 月 25 日~30 日	プレースメントテストの実施 → クラス分け
5 月	J1・J2 に分かれ、授業準備 (カリキュラムの選定、教案・教材 作成、教案対面指導など)
6 月 1 日~7 月 7 日	教壇実習 (月・木 15:15~17:35) 反省会 (授業終了~19:00)
7 月 11 日、25 日	実習反省会、アクション・リサーチ構想発表
8 月 7 日	アクション・リサーチレポート提出

3. 実習準備

本節では、実習における準備内容を具体的に述べていく。

3. 1 引き継ぎ

平成 27 年 11 月、指導教員立会いの下、前年度の実習生より実習概要および各仕事の内容について説明が行われた。その後、これらの情報をもとに仕事の担当と勉強会の日時を決めた。

3. 2 勉強会

翌年の 1 月から実習生主体の事前勉強会を開始した。日本語教授に関する具体的な事柄については他の授業において講読していたので、勉強会では、横溝紳一郎著『日本語教師のためのアクション・リサーチ』を使用することにした。本実習の目的は教壇実習のみならず、自らの授業を録画し、そのビデオ分析から問題点を見つけ、改善していくことも課題の一つとなっている。そのための基礎知識として「アクション・リサーチ (以下、AR) とは何か」といった AR の基本的な理解から、AR を行うための具体的な方法を学習した。各自予習をして勉強会に臨み、リーディング担当者による要点の解説後、疑問点や不明点を話し合うことで深い議論を行うことができた。当勉強会の具体的なトピックを表 2 に示す。

表 2 勉強会の内容

	トピック
1 回目 (1/7)	AR の定義と特徴、AR 実施上の問題やプロセスについて
2 回目 (1/14)	日本語教育における AR について—実践報告例を参考に
3 回目 (1/21)	AR テーマの見つけ方、情報収集、予備調査、データ分析について
4 回目 (2/10)	現時点における AR テーマの構想発表など

3. 3 日本語クラス立ち上げおよびクラス運営における業務

先述のように、実習用の日本語クラス立ち上げのため、受講生の募集をはじめとするさまざまな業務を実習生が主体的に担った。それらの業務を大きく分けると「受講生の募集」と「日本語クラス運営」がある。その詳細を表 3 にまとめる。

表 3 日本語クラスの立ち上げおよび運営の仕事内容

業務	仕事内容 () は担当人数
受講生の募集	1. 連絡用メールリングリストの作成 (1)
	2. メールアドレス、ドロップボックスの設定 (1)
	3. ポスター・チラシの作成 (2)
	4. プレースメントテストの作成 (全員)
	5. グーグルフォームの作成 (英・中・露語対応) (3)
	6. チラシ配布 (全員)

	7. プレースメントテスト実施 (全員)
	8. 受講希望者のメール対応 (英・露語対応) (2)
日本語クラス運営	1. 受講生からのメール対応、メール発信 (J1、J2 各 1)
	2. 備品の管理 (2)
	3. 授業ビデオ録画 (J1、J2 各 2)
	4. 教室の利用申請および鍵開け (2)

3. 4 授業におけるミニティーチング

教壇実習に入る前に、授業の中でミニティーチング（模擬授業）を行った。1人10分の時間枠で、初級前半の項目から任意の場面を選び、会話および文型を教える。このミニティーチングにおいても、媒介語を使用せず直接法で行うこと、構造シラバスで文型を積み上げるのではなく、汎用性の高い会話や文型を軸とした授業を行うことが条件であった。11名の実習生と6名の教員およびTF、TAが3グループに分かれて、教師役および学習者役を担当し、教案の作り方、教壇での話し方・教え方、用いる教材・教具等についてアドバイスを受けた。また、実習生も自由にコメントを述べ合い、互いに評価した。

4. 教壇実習

本節では、6/1から5週間にわたって行われた教壇実習について詳しく述べる。

4. 1 受講生の決定とクラス分け

4月の初旬からポスターを掲示し、チラシを宿舎に投函または直接配布するなどして、日本語クラスの受講生を募集した。そして、4/20までに応募のあった40名余りの受講希望者の日本語レベル判定およびクラス分けを行うために、プレースメントテストを実施した。その結果、クラスは例年通り、平仮名・片仮名の読める初級前半クラス（J2）とゼロ初級クラス（J1）の二つを設けることとし、それらのレベルにあった学習者十数名ずつの受講が決まった。表4にプレースメントテスト、表5にクラス構成を示す。

表 4 プレースメントテスト

<p>I ひらがな・カタカナ読み問題</p> <p>表示されたひらがな・カタカナを読んでください。(スライドを 4 枚ずつ提示して評価)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> さくら、さんぽ、おりがみ、しんぶんし、ぎゅうにゅう カメラ、バス、パソコン、スーパー、スマートフォン </div> <div style="text-align: right; margin-right: 50px;"> 評価 (○・△・×) </div> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px;">ひらがな</td> <td style="padding: 5px;">カタカナ</td> </tr> <tr> <td style="height: 30px;"></td> <td style="height: 30px;"></td> </tr> </table>		ひらがな	カタカナ						
ひらがな	カタカナ								
<p>II 数字聴き取り問題</p> <p>これから言う数字を紙に書いてください。</p> <div style="margin: 10px 0;"> <table style="display: inline-table; border: none;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">[0 1 2 3 4 5 6 7 8 9]</td> <td style="padding: 0 10px;">から三つ</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">[10 30 18 49 78 65]</td> <td style="padding: 0 10px;">から三つ</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">[200 300 710 840 508 946]</td> <td style="padding: 0 10px;">から三つ</td> </tr> </table> </div> <div style="text-align: right; margin-right: 50px;"> 評価 (○・△・×) </div> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px; text-align: center;">数字</td> </tr> <tr> <td style="height: 30px;"></td> </tr> </table>		[0 1 2 3 4 5 6 7 8 9]	から三つ	[10 30 18 49 78 65]	から三つ	[200 300 710 840 508 946]	から三つ	数字	
[0 1 2 3 4 5 6 7 8 9]	から三つ								
[10 30 18 49 78 65]	から三つ								
[200 300 710 840 508 946]	から三つ								
数字									
<p>III 時間問題</p> <p>次の時間を言ってください。</p> <div style="margin: 10px 0;"> <table style="display: inline-table; border: none;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">[11 : 00 9 : 30 4 : 00]</td> </tr> </table> </div> <div style="text-align: right; margin-right: 50px;"> 評価 (○・△・×) </div> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px; text-align: center;">時間</td> </tr> <tr> <td style="height: 30px;"></td> </tr> </table>		[11 : 00 9 : 30 4 : 00]	時間						
[11 : 00 9 : 30 4 : 00]									
時間									
<p>IV 会話問題 (日本語で質問する)</p> <p>① 今日は何で(どうやって)来ましたか。or 自転車で来ましたか。 (点)</p> <p>② ここまでどのくらいかかりましたか。or ここまで何分くらいでした。(点)</p> <p>③ このテストはどうでしたか。 (点)</p> <p>[オプション]</p> <p>④ 日本の生活はどうですか。or 日本はどうですか。</p>									
<p>評価 (0～2点)</p> <p>0・・・質問が理解できず、全く答えられない。</p> <p>1・・・質問が理解でき、単語で答えられる。</p> <p>2・・・質問が理解でき、<u>センテンス</u>で答えられる。</p>									
<table border="1" style="border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px;">点数</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">点</td> </tr> </table>		点数	点						
点数									
点									

表 5 クラス構成

	J1	J2
レベル	ゼロ初級	平仮名・片仮名が読める初級前半
受講者数	9 名	9 名
国籍	インド(1)、インドネシア(2)、バン ラデシュ(1)、キルギス(2)、南アフリ カ(1)、ガーナ(1)、エジプト(1)	フランス(2)、インドネシア(2)、イン ド(1)、バンラデシュ(1)、チリ(1)、 イギリス(1)、タイ(1)
開講日時	毎週月曜 15:15~17:35	毎週木曜 15:15~17:35
担当実習生	院生(3)学類生(2)	院生(5)、学類生(1)

4. 2 実習グループ

2 クラスの開講に伴い、11 名の実習生を二つのグループに分けた。上記のように、J1 に 5 名、J2 に 6 名とし、クラス分け以降の活動（カリキュラム・教案作成やミーティング）はグループごとに分かれて行った。

4. 3 授業方針

J1, J2 ともに 1 日の授業は 40 分×3 コマである。授業の間には 10 分間の休憩を入れた。基本的に 1 日の 3 コマでテーマ・場면을統一し、授業が進むにつれて基本から応用へと学習が深められるようにカリキュラムを組んだ。1 コマ目で導入項目の場面提示や新出語彙の導入を行い、2 コマ目で新出文型の提示・練習や短い会話練習等を行う。そして、3 コマ目で 1、2 コマの学習内容を発展させたロールプレイなどを取り入れた。当日本語クラスでは、場面シラバスを用い、学習した日本語が教室内での練習に終わることなく、既習項目が授業後すぐにでも個々の生活の中で使えるような授業を行うことが基本方針であった。

全ての教壇実習は実習終了後のアクション・リサーチのために、その一部始終を教室内の 2 台のカメラで撮影した。隣の観察室には指導教員、TA・TF およびその他の実習生が控え、授業の様子をリアルタイムで観察した。1 日の授業終了後には毎回反省会を行い、そこでのコメントやアドバイスを次の授業に活かせるよう議事録を作成し、全体で共有した。

4. 4 授業内容

J1, J2 ともに特定のテキストは使用せず、全てのカリキュラムは学習者のレベルとニーズを考慮しながら、実習生の話し合いのもとで決められた。また、授業で学習する文型や語彙をまとめたハンドアウトを作成し、授業の前後に配布した。カリキュラムの詳細については、表 6 および表 7 に示す。

表 6 J1 カリキュラム

授業日	場面	コマ	到達目標	学習項目
第 1 週 6/6	自己紹介	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本の挨拶が出来る ・ 自己紹介の挨拶が出来る 	挨拶 (おはよう、こんにちは、いただきます/ごちそうさま、さようなら、おつかれさまでした、すみません) <ul style="list-style-type: none"> ・ はじめまして～です。 よくお願いします ・ ～と呼んでください
		2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己紹介で出身が出来る ・ 身分・職業が出来る 	<ul style="list-style-type: none"> ・ お国は？— (国) から来ました ・ お仕事は？— (筑波大学) の (学生) です ・ わたしも (学生) です
		3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 趣味について話せる ・ 分からない言葉の日本語を尋ねることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ご趣味は？— 趣味は～です ・ N と N ・ N って日本語で何ですか
第 2 週 6/13	服飾店で 買い物	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 洋服のアイテム名や色をいうことができる ・ 欲しいものが出来る 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 名詞 (T シャツ、スカート、ズボン、ジャケット、パーカー、シャツ、下着、靴下) ・ 形容詞 (赤/青/白/黒い、高/安、大/小、長/短、かわいい、かっこいい、きれい) ・ ～がほしいです ・ この N、その N
		2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 店内のどこにあるか訪ねることができる ・ 希望する品があるかどうかを尋ねることができる ・ 希望の品を選ぶことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ (スカート) はどこにありますか ・ もっと (大きい) の (は) ありますか ・ どっちがいいですか ・ こっちのほうがいいです
		3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 試着を申し出ることができる ・ 取り寄せを依頼できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 試着できますか ・ 他の色ありますか ・ 取り寄せお願いします
第 3 週 6/20	道や場所 を尋ねる	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建物の場所や交通手段を尋ねることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ～はどの辺にありますか ・ ～はどうやって行きますか (自転車・バス・電車で/歩いて) ・ ～から～まで～分です

		2	・建物内の施設の場所を尋ねることができる。	・エスカレーターを上がって、エレベーター、右/左に曲がって、まっすぐ、前、後ろ
		3	・乗り換えについて理解することができる	・～で電車を乗り換えます
第 4 週 6/27	(食事) に誘う	1	・友人を食事やイベントに誘うことができる ・日付、曜日を理解することができる	・～曜日、今週/来週、今日/明日/あさって ・～に行きませんか — 行きましょう ・～はちよっと... ・今週 <u>の</u> ～曜日
		2	・相手の空いている時間を尋ねることができる ・時間を理解できる	・～時/～時半 ・～は空いています ・一緒に(買い物し/カラオケ行き/ごはん食べ)ませんか
		3	・都合のよい曜日を探し、会う時間を調整して予定を決めることができる	・(～曜日/時)は忙しいです ・～時から～時まで ・(～曜日/時)はどうですか ・～で 会いましょう/勉強しましょう
第 5 週 7/4	レストラン での注文	1	・レストランで注文ができる ・店員の話が理解できる	・おタバコお吸いになりますか ・お呼びください/お付けしますか ・何名様、食後、お決まりですか、以上で
		2	・何が入っているか尋ねられる ・かかる時間を尋ねられる ・特定の素材を抜くことを頼むことができる	・～入ってますか ・すぐできますか ・～を抜いてください
		3	・テイクアウトを頼める ・会計のやり取りができる	・持ち帰りってできますか ・お会計別々でお願いします

表 7 J2 カリキュラム

授業日	場面	コマ	到達目標	学習項目
第 1 週 6/2	自己紹介	1	・自己紹介ができる	・仕事・趣味・出身国の言い方 ・独話式と会話式の自己紹介
	買い物	2	・コンビニ店員に、目当ての商品の場所を尋ねること	・～ありますか —はい、こちらです

			<ul style="list-style-type: none"> ができる ・店員の発話が理解できる 	<ul style="list-style-type: none"> すみません。当店にはおいてありません ・ただいま品切れです
		3	<ul style="list-style-type: none"> ・数字がいえる ・レジでのやりとりができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・1～10,000 までの数字 ・箸をお付けしましょうか —はい、お願いします いいえ、結構です
第 2 週 6/9	紛失	1	<ul style="list-style-type: none"> ・店で紛失した物を店員に伝えることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・～をなくしたんです ・～が見つかりました ・紛失物の説明
		2	<ul style="list-style-type: none"> ・紛失物を警察に届け出ることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・紛失した日付、場所の伝え方 ・～をなくしたんですが... ・(日付、場所)だと思います ・～が入っています
		3	<ul style="list-style-type: none"> ・紛失物が見つかったという電話を聞き取ることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・(場所)に来てください ・(時間)までに来てください ・～を持ってきてください ・時間(AM/PM) ・すみません。もう一度お願いします
第 3 週 6/16	クリニック	1	<ul style="list-style-type: none"> ・クリニックの施設案内 ・受付の指示を理解し、反応できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・体の部位の名称 ・～が痛いんです ・問診票に記入してください ・もう一度、熱を測ってください
		2	<ul style="list-style-type: none"> ・内科で病状をいうことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・風邪の病状 「体がだるいです」「目が痒いです」 「寒気がします」「吐き気がします」 「鼻水が出ます」「咳が出ます」 「喉が腫れています」 ・病名の聞き取り 「風邪、花粉症、食当たり、熱中症」
		3	<ul style="list-style-type: none"> ・薬局でのやり取りができる ・「～を教えてくださいませんか」を用いて尋ねることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・薬に関する語彙 ・「飲み方・お名前と生年月日・この言葉の意味・メールアドレス」を教えてくださいませんか ・薬の飲み方に関する指示が理解できる

第 4 週 6/23	旅行	1	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行の予定を立てることができる ・日程と場所を決められる 	<ul style="list-style-type: none"> ・～ので、... ・(～動詞)たいです ・月日の言い方 ・平日、祝日、(○月の)始め/終わり
		2	<ul style="list-style-type: none"> ・交通手段について話すことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・～へ()で行きます ・イ形容詞くて、イ形容詞です ・イ形容詞ですが、イ形容詞です
		3	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行の感想をいうことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・イ形容詞＋過去形 ・動詞＋過去形/過去否定形 ・季節/去年/今年/来年
第 5 週 6/30	レストラン	1	<ul style="list-style-type: none"> ・レストランで席を選ぶことができる ・注文ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・「満席、禁煙席、喫煙席、カウンター席テーブル席」 ・「喫煙席と禁煙席、どちらになさいますか」&「おタバコはお吸いになりますか」の聞き取り
		2	<ul style="list-style-type: none"> ・注文の会話ができる ・おすすめの料理がきける ・何の肉か確認できる ・大盛りが注文できる ・特定の素材を抜くことを頼むことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・注文に関する新出語彙 ・何かおすすめありますか ・～は何肉ですか ・～を大盛でお願いします ・～には～が入っていますか ・～アレルギーなので、～なしでお願いします
		3	<ul style="list-style-type: none"> ・レストランでのトラブルを解決できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・(注文)がまだきていないんですが... ・これ頼んでいないんですが... ・～をもらえますか
第 6 週 7/7	会話練習	1	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の国の文化や習慣について話すことができる ・他の国の文化や習慣について理解したり、尋ねたりできる 	<ul style="list-style-type: none"> ・コース全体を通して学習した語彙・文型の復習
		2	<ul style="list-style-type: none"> ・打ち上げパーティー 	

5. 教壇実習後の活動

教壇実習終了後の授業(月曜 6 限)では、まず、教壇実習の反省と課題についてグルー

プに分かれて討論し、寄せられたコメントを全体で共有した。次に、アクション・リサーチのテーマについてグループで話し合い、そこであがった意見を参考に各々の AR テーマを定めた。最終授業(7/25)において、リサーチテーマ、分析データ、分析方法などについて一人ずつ構想発表を行った。

6. 今年度の教育実習における反省と評価

今年度の教育実習全体を通して、評価できる点および改善点は以下のようにまとめられる。

〈評価できる点〉

- ・ 学習者の募集やクラス分けといった日本語クラス立ち上げの準備を早い段階から余裕を持って行ったことで、カリキュラム・教案作成等の授業準備に時間をかけることができた。
- ・ 見映えのするポスター・チラシにより受講生を多く集めることができた。
- ・ 対面指導や授業後の反省会において学生間でも活発な意見交換ができ、チームで教える利点が発揮された。
- ・ パワーポイントの効果的な利用により、学習者にとって理解しやすく、かつ楽しい授業を行うことができた。
- ・ 教壇実習が開始され、クラスごとの活動が主となっても、J1、J2 間で引き続き情報を共有し、助け合いながら取り組むことで、良い雰囲気を維持し、最後の合同打ち上げも和やかに行うことができた。
- ・ J1、J2 クラスともに教師と学習者のラポールが自ずと構築され、コース終盤まで学習者の高い出席率を確保できた。

〈改善点〉

- ・ 教壇実習のための長時間の打ち合わせをもう少し短縮できるような工夫が必要とされる。
- ・ 大半の実習生にとって場面シラバスでの日本語指導に大きな困難が見受けられたことから、もっとスムーズに適応できるよう何らかの対応が必要なのではないかと考えられる。
- ・ 実習中、何度か録画に失敗した。担当の急な不在で、機器の操作ミス等がないように録画係は各グループに二人以上立て、毎回必ず試し撮りを行うべきである。
- ・ 実習室の鍵開け手続きの簡略化や全ての実習生がカラープリンターを利用できるようにするなどの実習準備環境に改善が求められる。
- ・ 本実習は 3 人で 1 日分の授業を担当するという性質上、事前のカリキュラム、教案作成において綿密な話し合いが必要とされるが、それが不十分で 3 コマの連携がうまくいっていない授業もあった。良い授業を行うためにも一人ひとりが自覚を持って取り組むことが不可欠である。

7. おわりに

以上、平成 28 年度筑波大学大学院人文社会科学研究科日本語教育実習における実施概要について述べた。このプロジェクトが始動した当初は、日本語クラスの立ち上げにまつわる山のような課題を前に焦りや不安ばかりが募ったが、なんとか無事に一連の教育実習活動を終えることができた。様々なハプニングや試練を乗り越え、出会いや経験から各自が多くを学んだ。大きな達成感を得た実習生もあるであろう。しかしながら、日本語教育・日本語教師への歩みはまだ始まったばかりで、残された課題も多い。今後この経験を糧として日々精進し、各々がさらなる飛躍を遂げられることを期待したい。

参考文献

河野俊之・小河原善朗(2006)『日本語教師のための「授業力を磨く」30のテーマ』アルク
横溝紳一郎(2000)『日本語教師のためのアクション・リサーチ』凡人社